



豊洲市場で静岡の食の魅力を発信



■お問い合わせ

自民党静岡県第6選挙区支部
かつまた孝明後援会
〒410-0062
沼津市宮前町13-3
電話 055-922-5526
FAX 055-922-5527
URL <http://www.t-katsumata.com>
ブログ <http://ameblo.jp/t-katsumata/>
E-mail jimin@t-katsumata.com

農林水産業の発展のために

令和4年8月の第一次岸田改造内閣において、静岡県選出国会議員として初めての農林水産副大臣に就任しました。

現在、農林水産業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。農業畜産業においては、担い手の高齢化、肥料・飼料・燃料の高騰など厳しい環境の中、食料安全保障の強化を図るべく食料自給率を高め、みどりの食料システム戦略のもと、持続可能な農業を実現していくかなければなりません。

「農は国の基」であり、農山村の原風景を守っていくことが必要であり、同時に生産性の向上を図っていくことが重要であります。引き続き、農業農村整備事業にも尽力していきます。

戦後造成された人工林が、本格的な利用期を迎えていました。気候変動による集中豪雨によって、土砂災害等が多発しています。通常国会において、クリーンウッド法も改正されました。間伐等による森林管理は非常に重要であり、荒れ果てた森林によって保水力が弱まり、災害に繋がります。昨今のウッドショックやウクライナ情勢を踏まえ、今後さらなる国産材への転換と、国産材の安定的、持続的な供給体制の構築に取り組んでいきます。公共建築物に国産材の使用促進を図るなど、積極的に国産材需要を作り出していく必要があります。

水産業においては、海洋環境の変化が激しい中で、水産資源の適切な管理と成長産業化を図っていかなければなりません。特に海水温の上昇により、遠洋漁業はもとより沿岸漁業、養殖業などは大きな影響を受けています。

副大臣として「海洋環境の変化に対応した漁業のあり方検討会」を設置し、海洋実態を調査したうえで、デジタル技術をフル活用し、生産性を向上させ、我が国漁業の国際競争力を高めていきます。

また、海業についても法整備し、六次産業化を進め、魚の消費量を増やし、「さかなの国」日本の復活を図るとともに、漁港の発展を推進していきます。



ふるさとの食・観光と農林水産業のために

岸田総理とともに、日本食・食文化の魅力を発信!



ニューヨークでのレセプション会場にて



地元の定置網漁を視察

令和5年度予算確保状況(農林水産関係一部のみ)

市町村名	地区名	事業名	事業費(千円)
沼津市	重須		48,000
	西浦みかん江梨		30,000
	西浦みかん足保久科		40,000
	西浦みかん立保古宇		27,000
	西浦みかん東部		71,000
南伊豆町	西浦みかん江梨西部		40,000
	浮島北部		20,000
	竹麻	畠地帯総合整備事業	30,000
	長者原	畠地帯総合整備事業	30,000
伊豆の国市	みらい伊豆	中山間地域農業農村総合整備事業	5,000
伊豆市	松崎	中山間地域農業農村総合整備事業	185,000
伊豆の国市	柿沢川南部	農村地域防災減災事業	25,000

みどりの食料システム戦略の推進



持続可能な食料システムの構築に向け、中長期的な観点から、調達、生産、加工、流通、消費の各段階の取組と、カーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進します。肥料・飼料・原料調達を輸入から国内生産への転換や、国産品の評価向上による輸出拡大などが期待されます。

かつまたかあき
勝俣孝明

昭和51年4月7日生まれ(47歳)
出身 沼津市
住所 沼津市花園町
家族 父親(沼津市出身)
母親(伊豆市出身・修善寺)
妻・長男・長女・次男

学歴

しょうえい幼稚園 卒園
沼津市立門池小学校 卒業
沼津市立門池中学校 卒業
静岡県立沼津東高校 卒業
学習院大学経済学部 卒業
慶應義塾大学大学院経営管理研究科 卒業
経営学修士:MBA取得

主な職歴

平成12年4月 スルガ銀行 入社
平成24年12月～ 衆議院議員1期目
平成26年12月～ 衆議院議員2期目
平成29年10月～ 衆議院議員3期目
令和3年10月～ 衆議院議員4期目
農林水産副大臣(第2次岸田改造内閣)、環境大臣政務官(第4次安倍改造内閣)、環境委員会理事、消費者問題に関する特別委員会理事、自民党政調副会長、党財務金融部会長代理、党金融調査会副幹事長、党組織運動本部副本部長、党労働関係団体委員長、党食育調査会幹事 など

観光と農林水産業

コロナや世界情勢が不安定の中、観光業は大きな痛手を受けました。先日、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、行動制限が緩和され、各地で賑わいを取り戻しつつあります。

静岡6区の基幹産業である観光も、農林水産業の発展がなくては成り立ちません。

美味しい食材と素晴らしい環境資源がなければ、魅力ある観光地にはなりません。特にインバウンドのお客さまに、素晴らしい地元の食材を堪能していただき、自分に帰つてからも味わつていただけるように、インバウンドと輸出の好循環を構築していきます。

